

## 平成20年度 算数部 研究活動のまとめ

南丹・船井小学校教育研究会

<p>《研究主題》 子ども一人一人の数学的な考え方を生かし、伸ばす学習指導と評価の工夫改善</p>
-------------------------------------------------------

第 一 回	日時	平成20年 6月 4日(水) 13:45～16:30
	会場	京丹波町立丹波ひかり小学校
	研究の概要	(1)授業研究会 第5学年「小数のかけ算」 (少人数授業：基礎コース、標準コースのうちの標準コース)  (2)事後研究会 (3)講演 演題：「これからの算数教育」 講師：南丹教育局指導主事
第 二 回	日時	平成20年 7月23日(水) 13:40～16:30
	会場	南丹市立園部小学校
	研究の概要	(1)実践発表 『新たな自分を創る子どもの育成』～学び合いのある算数科の授業を通して～ 第2学年「かくれた数はいくつ」の実践 発表者：南丹市立園部小学校 (2)指導助言 南丹教育局指導主事 (3)講演 演題：「今、算数で大切にしたいこと」 講師：奈良女子大学附属小学校より (4)質疑
第 三 回	日時	平成20年11月26日(水) 13:45～16:30
	会場	南丹市立園部小学校
	研究の概要	(1)授業研究会 第3年「べつべつに、いっしょに」  (2)事後研究会 (3)実践レポート交流 (3)(4)は、小グループでの協議→全体報告) (4)部会総括

<p>本年度の研究で明らかになった内容</p>	<p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者が、本研究会の研究主題を意識した問題解決的な授業を公開できた。</li> <li>・自力解決→集団解決という指導過程が有効に働き、児童の数学的な考え方を伸ばしていることを確認し合えた。</li> <li>・実践報告では、園部小学校の実践研究の積み上げの成果に学ぶことができ、大変参考になった。また、その実践を府小研の大会でも、南船の代表レポートとして報告することができた。</li> <li>・学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた研修も大切にし、2回の講演を設定した。これからの算数の在り方について研修を深めることができた。</li> <li>・講演で学んだことを、校内研修会で紹介し共有された学校や、追実践する部員もあり、研修の広がりもみられた。</li> <li>・昨年度の反省を生かし、お互いの実践を学び合う機会を設定したり、交流の仕方を工夫したりすることができた。</li> </ul> <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者は、研究テーマを意識した授業の公開ができたが、事後研究会等において、研究テーマに沿った協議を行い内容を深めるまでには至らなかった。</li> <li>・評価の在り方についての研究があまり深まらなかった。</li> <li>・今後は、評価という観点から、適用題の内容や振り返りを書かせる視点について考えていきたい。</li> </ul>
<p>来年度への研究課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科においては、次年度より、新学習指導要領の先行実施に伴う学習内容の移行措置や、授業時数の増加に対応した取組を実践する必要がある。本研究会も、そのことを踏まえた研修ができるように計画的に取り組む。</li> <li>・府小研や全国算数・数学研等の実践や研究成果も適宜紹介し、部会の一層の充実を図る。尚、全国算数・数学教育研究京都大会の開催に当たり、南船支部から要員の派遣が必要になることもあり得ることを想定しておく。</li> </ul>
<p>その他の研究活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府小学校教育研究会算数科教育研究大会（与謝野町立三河内小学校）に部員4名が参加。低学年分科会において、園部小学校の実践を発表。また、三河内小学校の研究紀要を全部員に配布。</li> <li>・次年度に開催される、全国算数・数学教育研究京都大会（平成21年8月4日～5日）に向けて、部長が実行委員として実行委員会に出席。また、第3回研修会において交流した実践レポートのうち3本を、南船支部代表レポートとして推薦。</li> </ul>